

経済学部

経済学プログラム

取得できる学位 ★学士（経済学）

■ プログラムの概要

本プログラムは経済学分野の教育プログラムとして、「近代経済学」と「グローバル経済」という2つの領域を擁している。前者では、社会経済の基本的制度を学び、経済モデル（理論）分析と経済データ（実証）分析の方法を習得することにより、経済学部ならではの知的センスと実践的分析能力を持った学生を育てることを目標とする。後者では、地球規模に拡大した経済活動（グローバル経済）に歴史的観点を入れながら様々な切り口から分析する科目を学ぶことにより、幅広い視野をもった学生を育てることを目標としている。また本プログラムは、地域の中核大学としての役割を担うに相応しい充実したカリキュラムを提供しており、経済学の理論、経済思想、世界経済並びに各国経済の歴史および現状、経済制度・政策などについて学習を深めることができる。

■ 人材育成目標

プログラムを通じて、経済学についての知識を中心にした幅広い視野から課題を探究できる能力を有し、国内外の企業や公的団体などで中核的役割を担う資質を有する人材の育成を目指すと共に、より豊かな知的探求心を持った創造的社會人を育成する。また、中学校教諭一種免許（社会）および高等学校教諭一種免許（公民）の教育職員免許を取得することが可能である。

■ プログラムの到達目標（期待される学修成果）

| 1 | 知識・理解

- 個々の家計や企業の行動を理解し、市場の役割についての知識を修得する。
- 集計された家計や企業の行動を理解し、景気変動とそれに対する政策対応の知識を修得する。
- 現代の経済社会の成り立ちや仕組みを体系的に把握することができる。
- 市場社会の世界史的な発達と変容を網羅的に理解することができる。
- 経営学の観点から様々な事象を理解することができる。

| 2 | 当該分野固有の能力

- 経済理論や経済政策に関する知識を活用して、経済社会の多様な課題を理解・分析し、その解決策を模索することができる。
- 統計データを活用して、社会的現象を経済学の観点から理解し、分析することができる。
- 世界の経済成長と格差が生み出される背景を捉え、問題解決に導くための論理的能力を涵養することができる。
- 世界各地の社会経済の歴史・現状をめぐる知識と理解を応用し、現実の社会問題を根源的に考察できるようになる。

| 3 | 汎用的能力

- a) 外国語を利用して、異文化について幅広く情報を集めることができる。
- b) 数学や統計学の基礎知識を用いて、基本的な演算やデータに基づいた客観的な分析を行うことができる。
- c) 読み手や聞き手の立場に立って、自分の意見を論理的・体系的に伝達すると同時に、他者の意見を聞くことができる。
- d) 物事を論理的に考察することができる
- e) 幅広く、深い教養をもとに、様々な現象を考察し、その本質を理解することができる。

| 4 | 態度・姿勢

- a) 経済社会で現実に行き起きている問題に自ら気づき、経済理論の基礎知識をもとに理解しようとする自発的な行動をとることができる。
- b) 社会の多様な問題に対して、専門分野および周辺領域の知識を活用して積極的に取り組むことができる。
- c) 文化や言語の異なる人も含めて、他者の多様な考えに共感し、それを尊重することができる。
- d) 企業や個人の行動が社会にどのような影響を与えるかを考え、社会的責任を踏まえた行動ができるようになる。

■ プログラムの履修要件

- ・社会の多様な問題に強い関心を持ち、課題に向かって主体的に行動できる人。
- ・経済学や経営学の確かな専門知識を身に付けたいと考えている人。
- ・文系・理系という枠組みを超え、幅広い教養を身に付けたいと考えている人。
- ・多様性を受け入れ、地域社会や国際社会で活躍する意欲を持っている人。

■ カリキュラム立案と学修方法についての基本方針

1年次より経済学全般に関わる基礎的な学習を開始し、経済学とはどういった学問であるかをイメージできるようにしていくと同時に、これから専門的な学習を行うために必要とされる幅広い技能を活用できる能力を身に付ける。

また2年次から、本格的な専門教育が開始されるが、それと同時に演習（ゼミ）が始まる。これらを並行して行うことにより、社会における様々な問題に目を向け、自ら考え、人に説明し、また様々な考え方に接することにより、単なる知識の積み重ねに陥ることなく、経済学の知識を常に現実の問題と結びつけ、「社会を見る目」を身に付けた専門的職業人となることを目指す。この他、体系的な学習を支援するため、プログラムの概要で示した2つの専門領域（近代経済学とグローバル経済）ごとに履修モデル・コア科目を提示する。

本プログラムの教育目的である複眼的視野から課題探求が可能な人材を育成すること、さらには、多様化が進展している現代社会の中で社会経済についての問題を考察する際には、広く人文・社会さらには自然科学の知見を要することから、経済学以外の分野についても専門教育と並行して学ぶことが必要である。従って、経済学以外の視点から人や社会、あるいはそれを取り巻く環境や技術について学ぶことを経済学の専門知識を学ぶことと有機的に関連づけたカリキュラムの構築を基本方針とする。